

- 10:00 }
12:00
- 分科会③ 会場：仙台教区センター 2 階会議室**
「福島原発事故の実相を伝え続けていくために！」
 ～広島・長崎に原子爆弾が投下されてから 80 年を迎える今年
 改めて、福島県原発事故の実相について考え、分かち合ってみませんか？～
 2011年夏、福島原発事故直後の長崎平和祈念式典で、長崎市の田上市長(当時)は、私たちに、次のように問いかけられました。
 「ノーモア・ヒバクシャを訴えてきた被爆国の私たちが、どうして再び放射線の恐怖に脅えることになってしまったのか？」
 「自然への畏れを忘れていなかったか？人間の制御力を過信していなかったか？未来への責任から目をそらしていなかったか？」
 そして、この問いに対し、多くの方々は「『核に依存しない平和で安全な世界』をつくるために、渾身の力を傾けていくこと」を心から願われたと思います。
 しかし、ウクライナやガザの紛争、そして、物価高や海外貿易の不安定性による経済不安などの中で、今年 2 月に発表された政府のエネルギー基本計画は「原子力の最大限活用」の方向に大きく転換してしまいました。
 このような時だからこそ…
 改めて、福島原発事故のさまざまな実相【①放射性物質による環境汚染、②地域社会のコミュニティーの分断、③原発の廃炉作業の現状と今後の見通し（汚染水、デブリ、放射性物質を含む廃棄物処理、廃炉作業従事者の労働環境問題など含む）、④原発事故時の避難の困難さ、etc.】について考え、分かち合いを行う中で…
 分科会参加者のみなさまが、連帯の環の中で「『核に依存しない平和で安全な世界』に向かって歩み続けていくための力」を得られることを願っています。
 講師：高瀬つぎ子（福島大学共生システム理工学類 特任准教授 理学博士 カトリック信徒）
- 13:00 }
15:00
- 分科会④ 会場：元寺小路教会 2 階小聖堂**
「東日本大震災 14 年の歩み」
 ～復旧・復興、そして今。今後の課題は～
 2011年3月11日、東北地方三陸沿岸で東日本大震災が発生しました。大地震による大津波で沿岸各地は壊滅的な被害を受けました。日本のカトリック教会はオールジャパンの体制で被災地支援をスタートさせ、被災地 8 か所にボランティア拠点(ベース)を立ち上げ、支援活動を行ってきました。今後、日本各地で発生が予想されている大地震や大津波などの大災害。その時、被災地や被災者に何が起るのか、どう備えればいいのか、そしてどう支援すればいいのか。この14年のベースの活動を通して感じていること、見えてきたことをお話したいと思います。
 講師：根本摩利（一般社団法人カリタス南相馬所長）
 菅原圭一（元カリタス大船渡ベース長／カリタスみちのく代表世話人）
 千葉道生（一般社団法人カリタス南三陸代表理事／カトリック中央協議会 ERST）
- 13:00 }
15:00
- 分科会⑤ 会場：仙台教区センター 2 階会議室**
「再稼働女川原発の危うさと未来への道筋」
 ～被曝前提避難計画で命は守れない！原発は廃炉しかない～
 14 年前に事故が起きた福島第一原発廃炉の道筋も立たない中、女川原発 2 号機は再稼働してしまいました。青森県六ヶ所村には核燃料再処理工場も建設中です。
 仙台教区がある地域のこうした状況を知っているでしょうか。女川原発の避難計画に実行性がないことは懸念材料の 1 つです。住民の命を守るには何が必要で大切ななど身近な問題として捉え一緒に考えてみませんか。
 講師：日野正美
 （女川原発の避難計画を考える会 前女川原発再稼働差止訴訟団事務局長）